

CCS実証試験候補地選定のための苫小牧沖3次元弾性波探査の実施について

平成21年9月
日本CCS調査(株)

I. CCS実証試験候補地選定のための地質調査について

深刻化する地球温暖化への有効な対策のひとつとして、二酸化炭素地中貯留（CCS）が注目されています。そして、その実用化のため早期に実証試験が必要となっています。

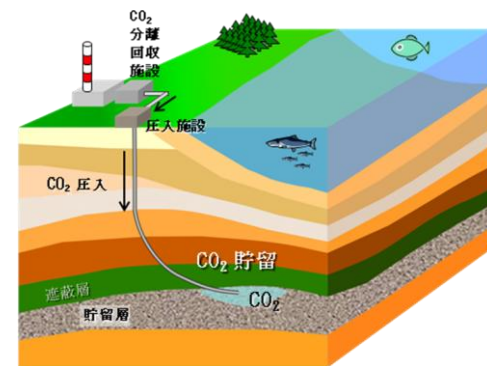
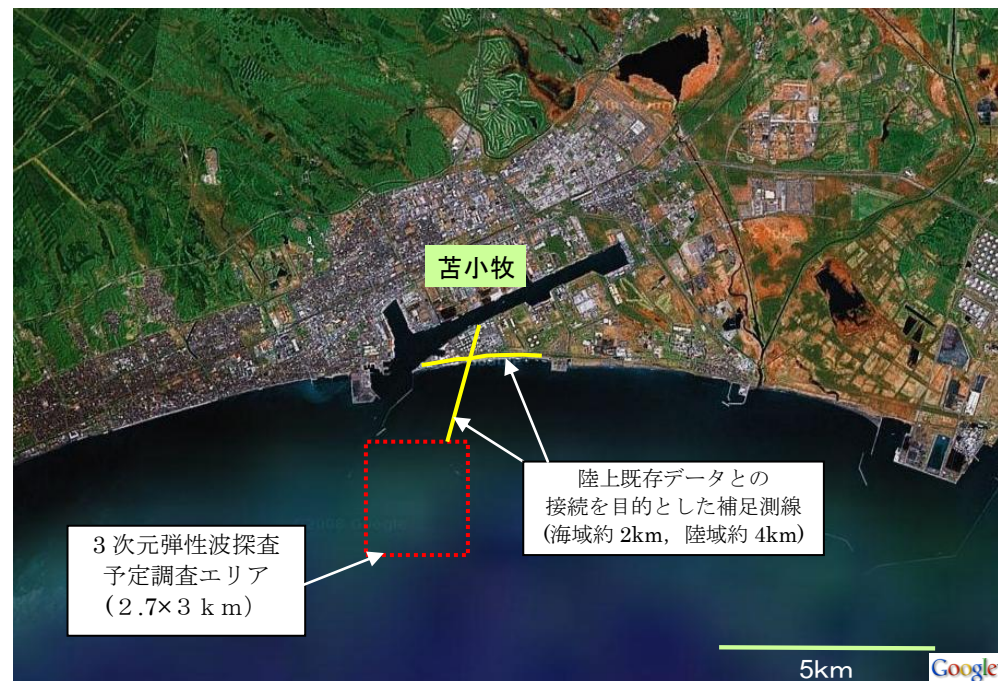
当社は、経済産業省の補助事業として実証試験候補地選定のための調査を実施してまいりました。

苫小牧沖地区は、構造性帯水層および非構造性帯水層を対象とした実証試験の有力候補地の1つとなっています。

本地区は、周辺の石油・天然ガス開発の探査を通じて、地下の地質構造形態が把握されており、二酸化炭素を貯留できる帯水層（海底面下約1,100m～約3,000m付近）の存在が確認されています。

実証試験を実現するには、これまで行ってきた机上検討だけではなく、3次元弾性波探査や調査井掘削など、より詳細なデータを取得するための地質調査が必要です。

今回行う調査は、遮蔽層（泥岩）と貯留層（砂岩、凝灰岩等）の広がり把握し、帯水層の基本的なデータを取得するための地質調査です。また、ここで得られた知見は、二酸化炭素地中貯留の基礎データとして他の候補地へ活用されます。



CCSモデル図

II. 苫小牧沖での3次元弾性波探査の実施について（経済産業省の委託事業の一環として実施）

実証試験候補地選定のためには、実地調査によりさらに詳しい情報を取得する必要があります。このため、3次元弾性波探査を次のとおり実施したいと考えております。

何卒、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

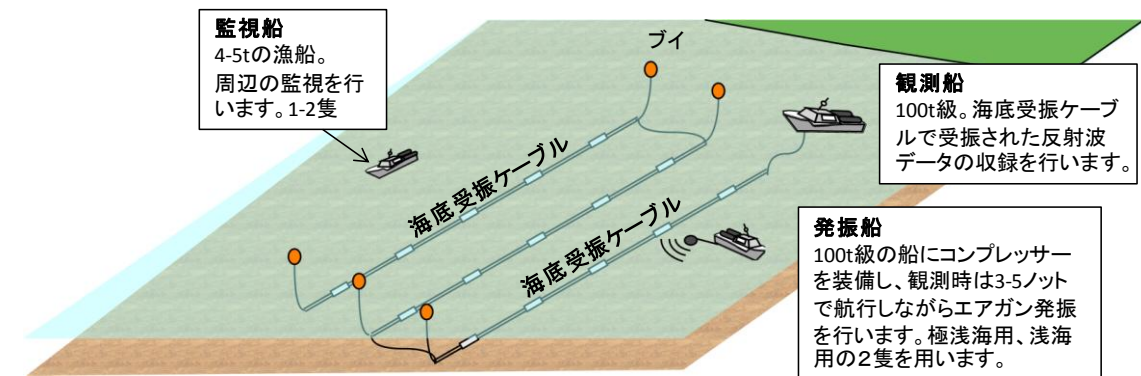
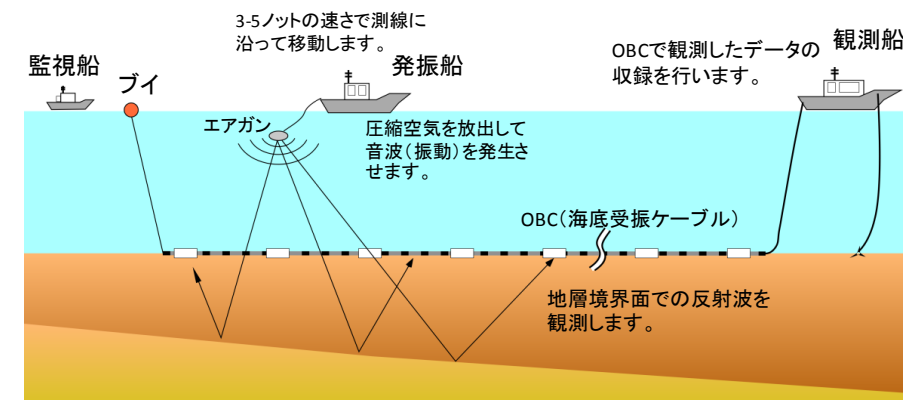
(1) 調査範囲

苫小牧港約2km沖合の東西約2.7km、南北約3kmのエリアを予定しております。（左下図中、赤枠で記載した範囲）また既存陸上データとの対比の為、補足的に陸上部における調査も予定しております。（同、黄線）

(2) 調査内容

海底に2もしくは3本の長さ3kmのデータ受振ケーブルを平行に設置します。その周辺においてエアガン発振し、海底に敷設した受振ケーブルで地層境界からの反射波を観測します。

* 漁業関係者等、地元関係先の皆様と十分に協議した上で調査を進めます。



【調査概念図】

(3) 調査時期

平成21年10月～11月（このうち海上作業は4週間程度）

(4) 調査スケジュール

	8月	9月	10月	11月
調査海域事前状況確認		★(1～2日程度)		
調査海域直前状況確認			★(1～2日程度)	
3次元弾性波探査			(海上作業は4週間程度)	

※調査スケジュールは天候等により変更することがあります。

